

財団法人 8020 推進財団

平成 21 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書

1. 事業名 : 10年間の成人歯科健康診査データ解析による歯周炎発症と増悪予測因子の推定

2. 申請者名 : 財団法人サンスター歯科保健振興財団  
(理事長 金田博夫)

3. 実施組織 : 財団法人サンスター歯科保健振興財団  
鶴見大学歯学部予防歯科学講座(主任教授 鶴本明久)

4. 事業の概要 :

成人歯科健康診査は、従来の歯周病患者を発見することから、歯周病のリスクを有するものを見出してそのリスクを低減するように保健指導を行うことへと軸足を変える提言がなされている。また、限られた健康診査の時間内で保健指導に重点を置くためには効率のよい現症スクリーニング法も求められている。今回私たちは、問診項目を選ぶことによって歯周病現症のスクリーニングやリスクの評価が可能かどうかを調べる目的で、過去実施した職域歯科健康診査データを用いて解析を行った。

5. 事業の内容 :

現症と関連する問診項目の解析には、職域歯科健康診査を受診した 175,382 人について初回時の臨床指標 (CPI) と問診票の回答結果を用いた。増悪リスクと関連する問診項目の解析には、初回時の CPI 値が 0, 1, 2 の範囲で、かつ 10 年間毎年継続して受診した 4,189 人について、初回時の問診票の回答結果と 10 年後の CPI 値を用いた。

解析の結果、歯周病の現症と相関が高い問診項目としては、「歯がぐらつく」「歯ぐきから血が出たりはれたりする」「抜いたままの歯が気になる」(いずれも正の相関)、「(ハブラシ以外に)デンタルフロス・糸(付)ようじを使っている」(負の相関)が得られた。一方、10 年後の歯周病増悪と相関が高い問診項目としては、「歯ぐきから血が出たりはれたりする」「抜いたままの歯が気になる」(いずれも正の相関)、「1 日 3 回以上の歯磨き」、「口を開けるとゴリゴリ音がする」「その他気をつけている」(いずれも負の相関)が得られた。

6. 実施後の評価 :

過去の諸研究から、歯周病現症と相関の高い問診項目としてはさまざまな自覚症状の有無があげられており、今回の解析でも同様な結果であった。一方、歯周病リスクと相関の高い問診項目についての先行研究は少ないが、今回の結果では自覚症状以外にも幾つかの項目があげられた。歯周病リスク評価に一般に用いられる全身疾患の有無や家族の歯周病歴などの項目については今回解析に用いた問診票の中にはなかったため、今後問診項目を増やしてデータを取った上で改めて検討したい。